



資本主義と自由経済システムにおける世界

クロダイインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

資本主義は貨幣経済と所有の容認において成り立つ。全ての現実には貨幣価値を有し、その所有において現実には存在する。これらは自由経済システムにおける需要と共有のバランスとともに現実を形成する。これらは所有と自由経済システムが、社会と生活のルールなのである。

これらは所有の容認において、富という判断を現実が有することを表す。これは富というエンジンが現実の牽引しているのである。

これらは経済にダイナミズムを与え、これらは疑いを求めず、その技術進歩における経済第一主義を与える。

自由主義は、放任における自由を抱き、人道主義は、世界への判断を与えられる。

これらは生存要求と貨幣経済が、その歴史の永続においてシステム化されたことであり、これらは生存と経済という絶対性を有するのである。

全てが貨幣への転換を有することは一つの倫理的矛盾を得る。これらはと意味という価値が世界を支配することを与え、他方においては倫理的考察が存在するのである。

経済が社会的責任と倫理的規範を離れるとき、富という判断が経済を支配する。これらは欲望の経済という現実が存在するのである。

これらは倫理的哲学的考察が経済を基盤することを考慮されるべきである。これは生存要求の延長において自由経済システムが存在することは、社会学の進歩における経済のあるべき姿の提案は存在するのである。これらは知性の進歩が新しい世界の創造を得ることは必ず存在するのである。

他方において自由経済システムは新しい現実の創造をその完全な自由とともに有する。これらは賞賛を有し、否定を持たないのである。

哲学的考察は、所有が全ての現実には存在することへの疑問と考察を有する。存在の所有権は、



労働における対価を有し、全ての現実への所有権を付与への疑問は存在するのである。

これらは経済という現実が所有を明示することであり、これらは哲学的、倫理的、社会学的基盤を要求する。

これらは全てを貨幣へ交換するという現実はその必要性を貨幣価値において決定することなのである。

経済は貨幣経済において、デジタル通貨という新しいマネーシステムへ転換する。これらは資本主義システムと自由経済システムが、経済という基盤において固定化した現実を創造することになるのである。これらは技術進歩が企業のプレゼンスを拡大し、自由経済システムにおける現実の創造は、新しい世界の創造を有するためである。

これらは富というエンジンが、自由主義における多様な現実の選択とともに、世界を与え、その多様性は新たな世界と選択においてさらなる未来を創造する。これらは自由主義の強さと意味であり、創造性における新しい現実は否定できないのである。

経済の高揚は、新しい世界の創造とともに存在するのである。これらは創造性が、キーワードであり、アメリカの国体に伴う現実は、明らかにと強さを有するのである。

経済は今日、新たな段階へ進んでいる。これは技術の飛躍的進歩が、企業のプレゼンスを遙かに拡大させているのである。企業が牽引し新しい世界の創造を有するのである。

これら原動力は、未来という選択に対峙しているのである。自由経済システムとアメリカの創造性は、計り知れない高揚と興奮を今日有するのである。これらはアメリカの自由主義と国体が、彼らの有する夢とともに、新しい現実を有するのである。これらは、次世代社会という新しい現実がそれら社会転換を持たない社会とのコントラストを有する。これらは偉大な真実なのである。既存歴史の転換が存在するという真実なのである。

これらは、新しい技術文明を未来へ有するのである。宇宙への参加は、新しい時代における現実なのである。アメリカの社会転換は、もはや現実なのである。これらは政治環境と学術環境、宇宙開発、彼らの理想、創造性、自由主義と自由経済システム、自由貿易システム、投資の集積における金融市場など、彼らの現実とシステムが存在するのである。しかし、このシステムは、一つの完成を有する。自由主義は、一つの理想形なのである。また、このシステムの崩壊は存在する。このシステムは維持されなくてはいけないからである。しかし、



これらのシステムへ対し、深耕された知性は、新たなシステムの提案を可能とできるのである。これは大いに留意されたい。この視点は、2分化と弱者という現実からの提案である。

これらは、全ての人々への生活の供与という政治の選択と責任において、新たなシステムの構築を模索するものである。これらは倫理的判断が存在し、社会の公正さがそのシステムを要求する。これらは健全性の構築を基盤とし、公正なルールと公正な参加を経済原則とするものである。これら公正さは合意を有し、その経済システムの構築を与えるものである。

現状における富の格差は、最も富んだ人と貧しい人の相違性は、倫理的、哲学的にその正しい判断を経済システムと社会システムにおいて与えなくてはいけないのである。この答えが存在する時、経済と社会システムにおいて公正さが確立するものである。

公正さという合意は、最も健全なのである。これは新資本主義という新しいアイデアが、新しい経済システムの構築を提案できるのである。またデジタル通貨やデジタルシステムは、これら健全性が基盤として、その社会と経済システムを構築することが、その絶対的正しさを与えるのである。

富の公正な分配は、ベーシックインカムという新しいシステムを提案するものである。これらは完全に基本的生活を共有するものであり、それを行政が保証するものである。

税制は、社会への参加が、共有の財産であり、参加に伴う共有の責任を税制とする。

また貿易システムと全ての国家における産業の育成は、独占を否定する。これらは自国産業の育成が、競争において、機会を失うことでなく、産業において、その2国間における条約を基盤とするものである。